

# CLTで3階建て新社屋

## 赤崎町の 30、31日に構造見学会 三栄工業所

大 船 渡

大船渡市赤崎町の(株)三栄工業所(金一磨代表取締役、従業員141人)は、木材の板を重ね合わせたCLT(直交集成板)を活用した3階建ての新社屋建設を進めている。屋根や壁にも生かしたパネル工法での事業所建築は難しく、整備効果などを広く発信し、今

後の普及・活用に貢献する方針。30日(土)と31日(日)には、構造見学会を開催する。同社は太平洋セメント大船渡工場をはじめ、気仙3市町での建築・土木工事や、同工場内の生産工程作業などを担っている。現社はプレハブ構造で、

スギ材によるCLTは厚さ12センチで、屋根や壁、内部階段などに取り入れ、木材使用量は265立方メートル。同社で(株)東京都の施工協力を受けている。公益財団法人日本住宅・木材技術センターによるCLT建築実証事業の補助事業も生かした。延べ床面積は約980平方メートル。1階には従業員用のロッカールーム、2階には事務室、3階には会議室を設け、今夏からの利用開始を見据える。

木材によるCLTは、災害では、1階部分が浸水。事務作業に加え、従業員の詰め所としても活用されているが、冷暖房が完備されておらず、福利厚生などに課題を抱える。前身となる佐々木組創業から100年を迎えた昨年、新社屋整備の準備を本格化させ、新たな取り組みとしてCLT工法を採用。CLTは、ひき板(ラミナ)を並べた後、繊維方向が直交(クロス)するように積層接着させた木質系材料。厚みのある大きな板となるため、建築構造材に加え、橋の床板にも使用される。

森林資源の有効活用に加え、遮音性や耐火性、耐震性を確保できる利点がある。気仙でも近年、公共施設や民間建造物で採用の動きが見られるが、3階建ての木造建造物にパネル建材として活用するのは県内でも珍しい。



建築工事が進む三栄工業所の新社屋

法の利点である建築作業の早さや、CLT材そのものを間近で見学でき、現段階での採用効果や課題などを理解できる。

金代表取締役(52)は「今後も太平洋セメント大船渡工場ととも事業を展開する中で、新しい技術にも取り組んでいきたいと考えている。その象徴と

なれば」と話す。見学会は、県内在住者を対象。時間は午前9時から10時、午後1時から3時。28日(木)まで受け付ける。見学会の要項は同社ホームページ(<http://sanai-ofunato.co.jp/>)で確認を。申し込み、問い合わせは同社工務部建設課(☎25・1171)へ。